

# 地域の「力」で備える防災

― 共助が大切な人たちを守ります ―



## 防災に

欠かせない

3つの力

昨年、多古町にも襲来した台風15号・19号などの大型台風や平成23年に発生した東日本大震災のような地震など、近年、大規模な災害が日本各地で起こっています。

災害が発生した場合には、自分や家族を守る「**自助**」、地域の住民、ボランティアなどが協力し助け合う「**共助**」、国・県・町が住民を守る「**公助**」の3つの力が合わさること、地域の防災力が高まります。

その結果、災害に強いまちとなり、大切な人たちを守ることにつながっていきます。



## 「共助」による備え

平成7年の阪神・淡路大震災の際、倒壊した家屋から救出された人の二八・一%が友人や近所の人に救出されたと報告されています。

(出典：財団法人日本防災学会)  
この共助が近年注目されており、消防団、自主防災組織の取り組みが重要になってきています。日頃から、災害を意識して地域住民が協力することで、一人ではできない備えが生まれ、それが地域を守ることになるのです。

## 地域防災の要 消防団



多古町消防団  
団長 工藤 和明さん

身近な存在の消防団として日頃から、団員の皆さんにはポンプ点検や消火栓等の水立点検、放水訓練をしていただいています。

災害などが発生したときに、いち早く行動が取れるのは、地域の実情をよく理解し常日頃から活動している地元消防団だからこそできるものです。

## 昨年の災害を教訓に

台風15号・19号を経験し、見回りなど初動の重要さを実感しました。災害時にはまず見回りを行い、現場の状況を区長、消防署や役場に報告して初動対応にあたります。

また、各ご家庭でも片付けや補強などを事前に行っていたいただけますようお願いいたします。

## 地元との連携

夜警や災害時に声かけをしているとき、地元の方からは「今日も見回りをしてくれてありがたいね」という嬉しいお言葉をいただいています。

地域と関わり、地域を知ること、地元の方との協力関係ができ、火災、災害時には地元の方に助けていただきながら活動をしてまいります。地元の方との連携を今後とも大事にしていきたいです。

最後に、いつも昼夜を問わず献身的に活動している団員の皆さん、ありがとうございます。私も、皆さんの代表として一生懸命活動できるよう頑張っていきます。

## みんなの力を結集し乗り越えた台風災害

一人の力が  
2にも  
3にもなる

防災は一人の力ではできなくても、地域で助け合い、支えあえる仲間がいれば、多くのことができます。

誰もが主役となり、日頃の生活から災害時を想定し、自分がどう動くか考えることで、それが災害時に生かせることができます。

昨年の台風災害を経験し、絆を深めた多古町民の皆さん。その教訓を未来につなげ、地域の中で自分の役割について、改めて考えてみませんか。

## 地域のつながりと防災力

自主防災組織をご存じですか。地域を災害から守るために、地域住民が自主的に防災活動を行う組織のことです。

現在、多古町では37の自主防災組織があります。

「無縁社会」などとニュースでも報じられているように、地域での付き合いが薄れてきているなか、災害が起きたとき、住民が一体となって連携し助け合える、地域に根差した組織が自主防災組織です。

## 自主防災組織の役割とは

### 【日頃の活動】

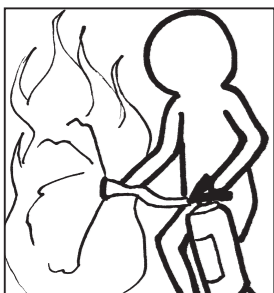
- ・ 防災知識の普及
- ・ 地域の災害危険箇所の把握
- ・ 防災訓練の実施
- ・ 各家庭のガスコンロやストーブなどの点検の呼びかけ
- ・ 防災用資器材の整備

### 【災害時】

- ・ 情報の収集、伝達
- ・ 出火防止、初期消火
- ・ 住民の避難誘導
- ・ 負傷者の救出、救護
- ・ 給食、給水活動

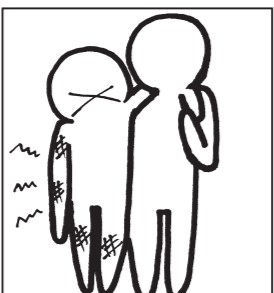
## 災害発生の際に必要な共助の例

### 消火活動への参加



火災を広げないための初期消火活動や、水害を防止するための土のうづくりに参加します。

### 被災者の救助



家屋などの下敷きになり、動けない方の救助を行います。

### 避難困難者への支援



高齢者など1人での避難が困難な方のサポートをします。

### 住民同士の声かけ



ご近所の方同士で安否の確認をし、自宅にいないことが危険な場合、避難を促します。



【写真解説】  
① 土のう作り  
② ブルーシート準備  
③ ビニールハウス解体  
④ 災害ごみ処理  
⑤ ブルーシート張り